

お祝い歌仙 『花帰る』の巻

捌 真奈

- 発句 入退院悲喜こもごもの去年今年 丹仙 新年
- 脇 冬の董のすこやかな貌 真奈 晩冬
- 第三 やあつと手を大きく振って駆け抜けて 重陽 雑
- 四 みんなの心ここに溶け合ひ 白馬 雑
- 五 月浴びて混声合唱続くらん 茉莉花 三秋
- 六 故郷の山河ふかく澄みゆく ぽぼな 晩秋
- ウー 楓橋渡ればそこに小学校 悦子 晩秋
- 二 少し大きめ髪飾りして 海苔子 雑
- 三 王子さまやはり白馬にまたがって 敦子 雑
- 四 誰かをらぬか国まもるひと シナモン 雑
- 五 ドーハ発本田一蹴りワオーと湧く 寂仙 雑
- 六 夏満月をあっぱれをぢさん やんま 三夏
- 七 吉丁虫飛び込み来たと追而書 笑 晩夏
- 八 考古学者と指輪掘り当て 梶 雑
- 九 幻の邪馬台国はここならむ ぼくる 雑
- 十 霞立ちたる日向かしの山 丹仙 三春
- 十一 あけぼのの波に散りこむ花の浦 重陽 晩春
- 十二 チェロ演奏に春を惜しみて 真奈 晩春
- ナオ一 三人の仲良きことよ亀の鳴く 白馬 三春
- 二 ホームメイドのクッキーとお茶 茉莉花 雑
- 三 ロンドンでは昼過ぎてから晴れ模様 ぽぼな 雑
- 四 くるくるくるり地球儀回す 悦子 雑
- 五 三Dテレビ恐がるかじけ猫 海苔子 三冬
- 六 喘息の身に湯冷め厳禁 敦子 三冬
- 七 胸板にどんと凭れてしゃくりあげ シナモン 雑
- 八 ほつれ綴ち居る君が墨染 寂仙 雑
- 九 みづ音のたうたうと峠越ゆ やんま 雑
- 十 可杯に酔うて候 笑 雑
- 十一 月背負ひいざや下界へ滑り台 梶 三秋
- 十二 紅葉のふとんに眠る妖精 ぼくる 晩秋
- ナウ一 デイズニーフアンファーレが爽やかに 重陽 三秋
- 二 発表会にきつと来てねと 白馬 雑
- 三 チケットは玄関先にピンで留め 茉莉花 雑
- 四 あちらこちらに蝶の瞬き ぽぼな 三春
- 五 歌詠まむ枝に帰りし花の宴 丹仙 晩春
- 六 光溢るる春の天空 悦子 三春

平成二三年一月 九日 起首

二月一七日 満尾